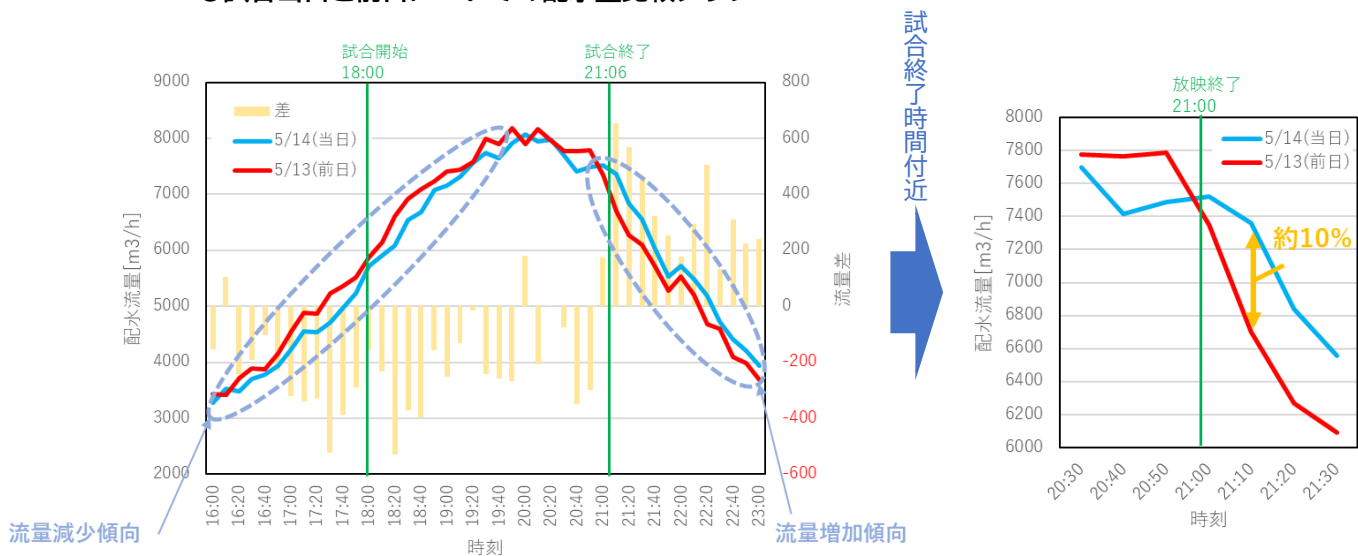


イベント放映時等における水使用量の変動について

(豊橋市民球場で行われた中日ドラゴンズ対阪神タイガース公式戦による配水量への影響)

水道事業において、気象や社会情勢、イベント放映時等により配水量などは大きく影響され、制御・運転方法に関わってくる。5月14日夜、豊橋市民球場で中日ドラゴンズと阪神タイガースの公式戦が行われた。そこで今回、豊橋市の配水量の変化を試合日（5月14日）とその前日（5月13日）で比較・分析し、今後の運転管理の参考とするため考察した。

○試合当日と前日についての配水量比較グラフ



時間帯別配水量増減率表

17時00分	18時00分	19時00分	20時00分	21時00分	21時10分
-7.0%	-2.7%	-3.4%	2.3%	2.4%	9.8%

○データ分析と考察

豊橋市民球場で公式戦が行われた日、試合開始前から試合終盤にかけての時間帯について豊橋市の配水量は前日と比較して減少傾向であった。一方、試合の放映終了時刻（21時）を境に配水量が前日と比較すると多く、最大で約10%増であった。また試合終了時刻が21時06分であったことから、テレビで観戦していたファンやラジオ等で最後まで試合を視聴していたファンが少なからずおり、試合後に風呂やトイレ等水道水を使い出したのではないかと考えられる。（なお、試合については中日が4対2で逆転勝利した。）

配水量について気温や天候等により同程度の変化量は日々ありうるものであり、監視制御についても通常通りの運用であったため、結果として公式戦による豊橋市の配水量への影響は小さかったと考えられる。